

重点指標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	分析(成果と課題)及び改善策
1 確かな学力の育成	生徒に授業の大切さを伝えるとともに、「分かる楽しさ」「できる喜び」「学ぶ面白さ」が味わえる授業づくりに努める。	教材研究に取り組み、「授業が良くわかる」と回答する生徒を増やしている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D60%未満	生徒アンケート 肯定的評価96% 【判定:A】	付けたい力を明確にした教材研究と、生徒をやる気にさせる指導・評価計画・テストの作成を目標に先生方が授業改善に取り組んでいる成果が出ている。今後は生徒たちに見直しを与え、自律的な学習者に育てて行くことが目標である。
	付けたい力が効果的に身に付く言語活動を設定したり、ICT活用を推進したりする。	授業で生徒の間で話し合う活動がよく行われ、自分の考えを発表したり話し合ったりすることが大切であると実感している。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	生徒アンケート 肯定的評価96% 【判定:A】	各教科において、学習の目標や狙いを達成するために、効果的にグループやペアでの活動を取り入れてきていることが評価されている。ただ、その場合でも個人思考の場面が足りなかったり、最後の全体での意見交流(振り返り)がなかったりするなど、まだ課題が見受けられる。ICTの活用については教職員の意識も高まってきて、タブレット、プロジェクター等の使用頻度もあがってきている。
	基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、やらせきる指導を行う。	やらせきる指導を行い、学力推移調査や定期テストにおいて、下位層を減らすまたは増やさないことができている。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	教職員アンケート肯定的評価85% 学力推移調査(昨年同時期と比較) 下位層の人数 2年6人 3年7人 減少 【判定:A】	昨年度まで一律に課せられていた課題を、今年度は「必須課題」と「選択課題」に分けて、生徒の能力に応じて選べるようにした。必ずやらせきる課題(必須課題)への取り組みが徹底しやすくなったが、まだ試行錯誤の段階であるので、今後も研究、改良を継続していく必要がある。
	論理的な思考力・表現力を育成するため、根拠や筋道を明確にして、説明や論述をさせる指導を行う。	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導し、生徒の「論理的な思考力・表現力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	教職員アンケート肯定的評価100% 学力推移調査(昨年同時期と比較) 偏差値の推移 2年0.5 3年1.9 アップ 【判定:A】	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導することは、本校が指導の重点として継続してきたことである。どの教科でも論理的思考につながる言語活動の工夫・改善が継続して行われ、生徒の論理的思考力を伸ばすことができている。
	批判的思考力を育成するため、課題設定、発問、学習形態等を工夫する。	多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、生徒の「批判的思考力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	教職員アンケート肯定的評価90% 【判定:A】	2年前より「多様な観点から考察する力の育成」を研究の柱としていたが、その成果がでている。今年度はそれに加えて生徒の「批判的思考力」の育成を目指している。課題設定、発問、学習形態用の工夫のさらなる研究の必要がある。
	自律的な学習習慣が身に付くよう指導・評価計画とテスト作成を工夫する。	計画的に学習を進め、週あたりの家庭学習時間の目標を達成している。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	教職員アンケート肯定的評価90% 保護者アンケート肯定的評価73% 生徒アンケート肯定的評価67% 【判定:B】	教師は週の学習時間の集計をさせたり、生徒の毎日の生活ノートなどで学習習慣の定着していると評価しているが、保護者や生徒はまだ「学習習慣が身についた」とまでの評価はしていない。今後は課題の量や取り組みせ方を工夫し学習習慣の定着につなげたい。
	資格取得や各種コンクール等への積極的な参加を促し、自ら学び、創造性を伸ばそうとする生徒を育てる。	英検の取得率(4級は中2、3級は中3、準2級は高1レベル) 1年 2年 3年 A4級55%以上 3級60%以上 準2級50%以上 B4級50%以上 3級50%以上 準2級40%以上 C4級45%以上 3級40%以上 準2級30%以上 D4級45%未満 3級40%未満 準2級30%未満	まだ結果が出ていないので 未判定	英語は国レベルで強化が進んでおり、今年度は英検の全員受検に取り組む。英語教室に目標を掲示したり、英語の時間に指導したりするなど、少しでも上の目標が達成できるように取り組んでいる。
	朝の全校読書に取り組み、読書の習慣化を図る。	読書の時間は集中して読書しており、普段でも読書に親しんでいる。 肯定的評価が A85%以上 B80%以上 C75%以上 D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価80% 【判定:B】	今年度より全学年で朝読書に取り組んでいるので、朝の時間はどの学年も静寂のなか読書をしている。今後は「読書の日」での「ブックトーク」の取り組みをさらに増やしたり、国語を中心に読書に取り組むことを推進したりするなど読書活動を充実していきたい。

平成28年度 中間報告書

石川県立金沢錦丘中学校

重点指標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	分析(成果と課題)及び改善策
2 豊かな心や人間性、社会性育成	2-1 道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて、理想の実現や思いやりの心、より良い社会の実現を目指すなどの道徳性を育む。	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、生徒が自己の成長や思いやりの心が深まったことを感じている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	生徒アンケート 肯定的評価82%  【判定:C】	道徳推進教師のリーダーシップのもと、一人一人の教師が道徳の授業をより大切に、改善に努めてきた。また、研究授業、互見授業を通して、道徳の授業の質も確実に上がってきている。また、道徳通信を発行し、授業や学校の取り組みの様子を知らせることで、家庭との連携も深めている。
	2-2 総合的な学習の時間や特活の時間を中心にキャリア教育を実施し、生徒の視野を広げ将来の夢や目標について考える取組を行う。	将来の夢や目標を持っている。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	生徒アンケート 肯定的評価79%  【判定:B】	各学年とも狙いを明確にし、それに沿って職場体験、修学旅行等の体験活動を計画、実施している。また、個人面談や先輩(高校生・大学生など)に話を聞く機会などを積み重ね、将来の目標を定め、それに向けて努力できる生徒を育てている。
	2-3 学級会活動や生徒会活動において、1年生から段階的に話し合い活動や自治的な活動に取り組みせ、自主的・実践的な態度を育てる。	色々な活動や取組に対して、自分で考えて自主的に取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価82%  【判定:B】	言われたことは確実にできるのだが、自分で考えて進んで行動することがなかなかできない。本校の生徒の大きな課題である。今年度は生徒に全校朝礼や行事の司会・運営をさせたり、ボランティアサークルを募集し活動させたりと、生徒自ら考えて行動する機会をつくってきた。今後もそのような機会をできるだけ設定し、生徒が能動的に行動できるようにしていく。
3 よりよい校風の樹立と発展に努める態度の育成	3-1 社会人マナーとしての気持ちの良い挨拶と礼儀・礼節を大切にしている生徒を育成する。	誰に対しても、大きな声で自分から気持ちの良い挨拶ができていく。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	生徒アンケート 肯定的評価78%  【判定:B】	様々な場面で、教師と代表生徒が挨拶運動を行っているが、多くの生徒は気持ちよく返してくれるのだが、自分から進んで挨拶できない生徒も多い。グッドマナーキャンペーンの保護者の意見からも、登校時の地域の方に対する挨拶も不十分であることが分かる。生徒や保護者の評価はそれほど悪くないのだがやや甘い基準であると考えられるので、今後あいさつ運動などの仕掛けの強化とともに「なぜ挨拶をしなければならないか？」等の心の指導をしていくことが必要である。
	3-2 錦中生としての自信と誇りを持ち、学校内外を通じてルールを守り、きちんとした身なりができる生徒を育成する。	錦中生としての自信と誇りを持ち、時間を守り、学校内外を問わず正しい身なりをしている。 肯定的評価が A95%以上 B90%以上 C85%以上 D85%未満	生徒アンケート 肯定的評価96%  【判定:A】	「正しい身なりをし、ルールを守って生活している」を肯定的に回答した生徒はほとんどで、おむね規範意識は育っていると考えられる。今後もきまりを誠実に守ることができるように継続的な指導を行う必要がある。
	3-3 健康な生活の維持向上に努めるとともに、部活動を通して心身ともに逞しい生徒を育成する。	規則正しい生活をするともに部活動を通して心身ともに逞しくなっている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	生徒アンケート 肯定的評価92%  【判定:A】	90%以上の生徒が部活動を通して心身ともに成長していると評価している。また、保護者アンケートでも肯定的な評価が90%で、保護者も、部活動を通しての生徒の肉体的な成長に対して評価していることが分かる。
4 信頼される学校づくり・開かれた学校づくり	4-1 望ましい人間関係づくりとじめを見逃さない学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	「学校が楽しい」と感じる生徒を増やせるとともに、生徒観察や定期的なアンケート等をおして実態把握に努め、小さな変化にも組織的に対応している。 肯定的評価が A100% B95%以上 C90%以上 D90%未満	教職員アンケート 肯定的評価100%  【判定:A】	学期毎の迷惑調査、年二回の生活アンケートで生徒の声を拾い、些細なことでも見逃さない体制ができていく。担任、教科担任、学年主任、生徒指導、教育相談、部活顧問が密に連絡を取り合うことで、迷惑行為の早期発見ができていく。また、行為が見つかった後の指導も、組織的に対応し、保護者に対しても丁寧に対応している。
	4-2 能力や資質の向上を目指し組織的に研究を推進するとともに、校外での研修や研究会へ積極的に参加する。	学校研究や校外の研究会や研修への参加等により指導力の向上に努めている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	教職員アンケート 肯定的評価90%  【判定:A】	研究部を中心に必要に応じて校内研究会を開催し、学校研究について様々な協議を行って共通理解をし、共通実践を行っている。また、夏休みには講師を招いて、本校の研究方針に沿った講演をしていただき、教員の意識と指導力の向上に努めている。
	4-3 中高一貫教育校に対する生徒及び保護者の期待やニーズを分析し、より望まれる学校づくりを目指す。	中高一貫校の現状の公開に、積極的に努めている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満  オープンキャンパスと学校説明会参加者に、十分に満足できる情報を提供することができている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	保護者アンケート 肯定的評価93%  【判定:A】  オープンキャンパス参加者アンケート 肯定的評価100%  【判定:A】	各種通信、にしきネットにより、タイムリーな情報発信を心がけている事が評価されている。また、今年度はホームページをリニューアルし、更新の頻度も上がり、保護者がより知りたいと思われる情報を発信できるようになった。今後も中高一貫校の現状を伝えられるように努力を続けていく。  オープンキャンパスに参加した人数は昨年よりも減少したが、参加者はほぼ全員満足したと評価をしている。今後もより多くの生徒、保護者が参加し満足できるような、広報活動、在り方、内容を検討していく。